

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

ブルーカーボン

最近の新聞記事から

「海藻がCO₂吸収、両得狙う 『ブルーカーボン』、藻場再生後押し」

(朝日新聞 2024年2月24日 朝刊3面)

「生態系、全国調査を 海藻・海草など、ための炭素——ブルーカーボン 研究者ら寄付募る」

(朝日新聞 2024年1月17日 夕刊6面)

海洋、特に沿岸域に分布する植物が光合成により取り込んだCO₂（二酸化炭素）に由来する、海底や深海に蓄積された炭素のことを、「ブルーカーボン」と呼び、森林などが吸収・貯留する「グリーンカーボン」としばしば対比して使用されます。炭素を数十年貯留するグリーンカーボンに対し、ブルーカーボンは数百～数千年単位で炭素を貯留するとされています。しかし、環境の変化や海洋汚染によってブルーカーボン生態系は年間平均2%～7%が失われており、このままでは今後20年以内にほとんどの生態系が失われてしまうと、国連環境計画（UNEP）の報告書で警告されています。これに歯止めをかけるべく、産官学によるブルーカーボン生態系の再生・維持への方策がとられています。

本紙では、ブルーカーボン生態系やその再生と維持のための取組について、また海洋汚染や海の環境変化について知るための資料や情報を紹介します。

【ブルーカーボンについて知る】

ブルーカーボンとは	国土交通省港湾局 https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk6_000069.html	Web 情報
ブルーカーボンの基礎知識や「地球温暖化防止に貢献するブルーカーボンの役割に関する検討会」について掲載している。同局はパンフレットも発行しており、イラストや写真を使ってブルーカーボンの重要性やブルーカーボン生態系のメカニズムについて解説している。		
<u>ブルーカーボンとは何か</u> <u>温暖化を防ぐ「海の森」</u>	枝廣淳子著 岩波書店 2022 西部：45185/119	図書
ブルーカーボンの仕組みやその可能性、国内外の動向について分かりやすく解説。海草や海藻が著しく減少・消失する、いわゆる「磯焼け」の状態が日本各地で報告されており、国内のブルーカーボン再生の取組を進めるための方策についても論じている。		
<u>特集 ブルーカーボン</u>	『化学工学』（Vol.85 No.12 2021）p2-36 西部	雑誌
ブルーカーボンに関する基礎的な知識から国内外の政策動向、沿岸生態系の環境価値、有機炭素の長期貯留など、様々な側面からブルーカーボンについて解説している。応用事例では日本におけるブルーカーボン事業の先駆けとなった横浜市の事例を紹介している。		

【ブルーカーボンに関する取組について知る】

<p>特集 <u>ブルーカーボン生態系を育む</u></p>	<p>『ニッポンスチール』(Vol.15 2023) p4-23 中央</p> <p>https://www.nipponsteel.com/common/secure/company/publications/quarterly-nipponsteel/pdf/2023_15_all.pdf</p>	<p>雑誌</p> <p>Web 情報</p>
<p>日本製鉄にあるブルーカーボンのための技術開発本部「シーラボ」の紹介や、海の生態系を守る藻場を再生するための、鉄鋼スラグを使ったプロジェクトについて解説。また、このプロジェクトの事例として北海道増毛町や三重県志摩市など6ヶ所の取組を紹介している。</p>		
<p>特集 <u>ブルーカーボンの可能性</u></p>	<p>『Business i. ENECO 地球環境とエネルギー』 (2019年6月号 2019) p12-25 西部</p>	<p>雑誌</p>
<p>気候変動に関する国際的な取組や国内のブルーカーボン事業の動向について言及している。前掲の横浜市のブルーカーボン事業、日本製鉄の鉄鋼スラグを使った事例のほか、福岡市(博多湾)と八千代エンジニアリングの取組についても紹介している。</p>		
<p>BLUE CARBON.jp</p>	<p>未来創造部</p> <p>https://bluecarbon.jp/</p>	<p>Web 情報</p>
<p>熱海の海域で藻場の再生に取り組む株式会社未来創造部が運営している、ブルーカーボンに特化した情報サイト。ブルーカーボン事業を始める上での情報収集のプラットフォームとして、国内外さまざまな取組や調査・研究の記事を多数掲載している。</p>		
<p>BLUE CARBON</p>	<p>環境省</p> <p>https://www.env.go.jp/earth/ondanka/blue-carbon-jp/top.html</p>	<p>Web 情報</p>
<p>「<u>国の取り組み</u>」のページでは環境省はじめ関係各省庁の環境保全対策についてまとめている。「<u>その他の取り組み・イベント等</u>」のページではオーストラリアで行われた日本政府主催イベント「Blue carbon actions in Japan」の内容や、全国45の自治体・企業等が取り組んでいるブルーカーボン事業について紹介している。</p>		

【海洋汚染や海の環境変化について知る】

サイト名・記事名・書名	URL・出版情報等	
<p>海洋生物多様性保全戦略公式サイト</p>	<p>環境省自然環境局自然環境計画課</p> <p>https://www.env.go.jp/nature/biodic/kaiyo-hozen/index.html</p>	
<p>「海のめぐみって何だろう?」「海とのつきあい方」「わたしたちにできること」の3つのカテゴリに計16の海の環境に関する記事を掲載している。海のめぐみを長きにわたって利用していけるよう、2011年3月に策定された海洋生物多様性保全戦略の全文も閲覧することができる。</p>		
<p><u>海の生物多様性を守るために</u></p>	<p>秋道智彌編著 西日本出版社 2019 西部：5194/100</p>	<p>図書</p>
<p>第1章「海のゴミ問題を考える」では漂流物、とりわけ海のプラスチック汚染を中心に海のゴミがどのように移動しているのかについて解説している。第2章「生物多様性を守れ」では外来種や地球環境の変化による海洋生態系の劣化について解説している。</p>		

